

【用語解説】

■ウォークアブル

「歩く(walk)」と「できる(able)」を組み合わせた造語で、「歩きやすい」「歩きたくなる」といった語感をもっている。国土交通省では、「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりを促進し、魅力的なまちづくりを推進している。

■エコドライブ

温室効果ガスや大気汚染の原因物質の排出を減らすために環境に配慮した運転を行うこと。穏やかにアクセルを踏んで発進する、加速・減速の少ない運転、無駄なアイドリングをしない、燃費を把握することなどが挙げられる。

■カーボンニュートラル

温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。「排出を全体としてゼロ」にすることを目指しており、二酸化炭素(CO₂)をはじめとする温室効果ガスの「排出量」※ から、植林、森林管理などによる「吸収量」※ を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味している(※はどちらも「人為的なもの」)

■グリーン水素

再生可能エネルギー等を使用し、製造工程においても二酸化炭素(CO₂)を排出せずにつくられた水素を指す。

■コミュニティサイクル

地域内で自転車を共有するシステムで、貸出・返却のための拠点(サイクルポート)を複数設置し、どのサイクルポートでも自由に乗り降りできるもの。

■再生可能エネルギー

石油等の化石エネルギーのように枯渇する心配がなく、温室効果ガスを排出しないエネルギー。太陽光、風力、地熱、水力、バイオマス等がある。

■省エネルギー診断

電気・ガス等エネルギーの使用状況や設備の保有状況・稼働状況を訪問調査により確認し、省エネルギー対策について提案する事業。

■ゼロカーボン

令和 32(2050)年に温室効果ガスまたは二酸化炭素(CO₂)の排出量を実質ゼロにすること。

「実質ゼロ」とは、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、「排出を全体としてゼロ」にすることを目指しており、二酸化炭素(CO₂)をはじめとする温室効果ガスの「排出量」※ から、植林、森林管理などによる「吸収量」※ を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味している(※はどちらも「人為的なもの」)

■脱炭素社会

ゼロカーボンが実現した社会のこと。地球温暖化対策の推進に関する法律では「人の活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量と吸収作用の保全及び強化により吸収される温室効果ガスの吸収量との間の均衡が保たれた社会」とされている。

■低炭素社会

石油等の化石燃料の大量消費に頼ることなく、二酸化炭素(CO₂)の排出が少ない社会のこと。

■電力の二酸化炭素排出係数

電力事業者が一定の電力をつくり出す際にどの程度の二酸化炭素(CO₂)を排出したかを示す係数。火力発電は化石燃料を燃やして発電するため、火力発電の利用率が高いと排出係数は高くなり、再生可能エネルギーや原子力発電の利用率が高いと排出係数は低くなる。

■ナッジ

行動科学の知見の活用により、人々が自分自身にとってより良い選択を自発的に取れるように手助けする政策手法。

■燃料電池自動車(FCV)

燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走る自動車。

■バイオマス発電

木材や植物残さ等のバイオマス(再生可能な生物資源)を原料として発電を行う技術のこと。バイオマスを燃焼した場合にも化石燃料と同様に二酸化炭素(CO₂)が必ず発生するが、植物はその二酸化炭素(CO₂)を吸収して生長し、バイオマスを再生産するため、トータルで見ると大気中の二酸化炭素(CO₂)の量は

■BEMS(Building and Energy Management System)

「Building and Energy Management System」の略称で「ビル・エネルギー管理システム」と訳される。室内環境とエネルギー性能の最適化を図るためのビル管理システムを指す。先行していた産業界のFA (Factory Automation:ファクトリー・オートメーション) の対語として、BA(Building Automation:ビル・オートメーション) と呼ばれることもある。

BEMSは、ITを利用して業務用ビルの照明や空調等を制御し、最適なエネルギー管理を行うもので、要素技術としては人や温度のセンサーと制御装置を組み合わせたものである。

■IoT(Internet of Things)

Internet of Things(インターネット オブシングス)の略称で、自動車、家電、ロボット、施設等あらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すもの。

■MaaS(Mobility as a Service)

Mobility as a Service(モビリティのサービス化)の略称で、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。

■ZEB(Net Zero Energy Building)

Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。

■ZEH(Net Zero Energy House)

Net Zero Energy House(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。

■ZEV(Zero Emission Vehicle)

Zero Emission Vehicle(ゼロエミッションビークル)の略称で、走行時に二酸化炭素(CO₂)等の排出ガスを出さない電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)、燃料電池自動車(FCV)のこと。